

かざぐるま

～子供たちに おくる風～



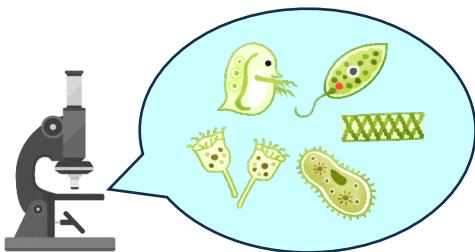
市川市教育委員会 学校教育部 教育センター 令和7年度 NO.5

新しい年がスタートしました。子供たちの様子はいかがでしょうか。

今年度も残り3ヶ月。「行く1月、逃げる2月、去る3月」と言われ、あっという間に過ぎていきます。大人も子供も体調に気を付けながら、一日一日を大切に過ごしたいですね。

昨年、市内小学校を訪問させていただき、各小学校での校内教育支援センターの運営や支援についてお伺いしました。

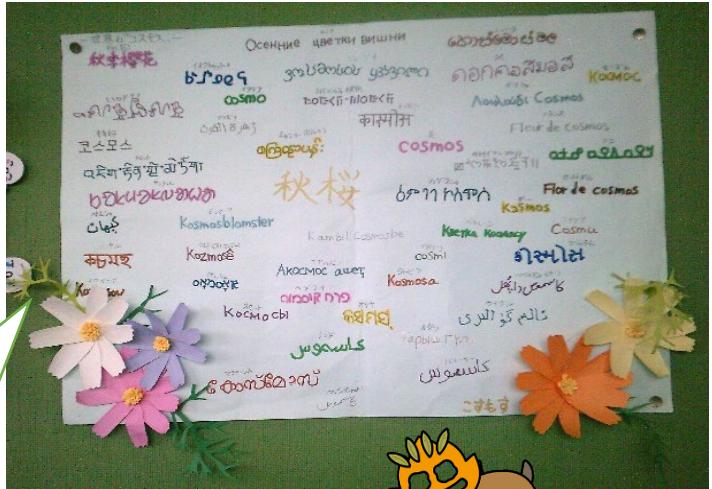
今回は、各校で取り組まれていた、校内教育支援センターでの子供たちの過ごし方をいくつかご紹介します。



生き物に興味のある児童は、みらいサポーターと一緒に、校内のビオトープから水を汲み、顕微鏡で観察をしました。見えた生物をスケッチし、調べてきました。



様々な言語に興味がある児童は、サクラやヒマワリ等の花が、世界の国々でどのように表されるのか調べ、まとめていました。



ヤッタ～！
デキタ～！



この他にも、体育館が空いている時間を使って体を動かす等、子供たちが『やってみたい』と思えるような過ごし方をしていました。

校内教育支援センターでの過ごし方に正解はありません。校内教育支援センターに来ることが精一杯の子供たちにとっては、保護者から離れて笑顔で過ごせることが目標となるかもしれません。子供たちの校内教育支援センターでの過ごし方や目標はそれぞれですが、それらを支えているものは、みらいサポーターや教職員の方の「子供たちを理解し、寄り添った関わり」だと訪問を通して強く感じました。

子供たちの実態や状況に合わせた、満足感や達成感を得られる活動は、子供たちの心のエネルギーを溜め、次の活動への原動力になります。目の前の子供たちが、何を求めているのかということをよく見て、支援や手立てを検討していただければと思います。